

魔法の器「縄文土器」って？

縄文時代という名前は、縄目の模様なわめの付いた土器ちようが使われていた時代ということです。この土器を縄文土器と呼んでいます。また、はじめて、粘土ねんどを焼くことで器を作ることを発見した時代です。この発見によって、人々の暮らしは大きく変わりました。

縄文土器は、魔法の器なのです。

* 土器の模様とモデルチェンジ *

魔法の器は、縄文時代の草創期そうそうきから晩期ばんきという長い時代の中で、形や模様の流行があって、変化します。

早期そうきの頃は底がとがっています。皮袋などを想像しながら作られたのかもしれないですね。前期になると、粘土に植物を混ぜたり、模様も少し複雑になってきます。中期の頃にはとても華麗かれいな土器を作ります。後期ちゆうこうには注口土器といった急須のような形の器も作られるようになります。晩期では、まるで工芸品せんさいのように繊細ていねいで丁寧に磨かれた器が作られます。



早期の土器
釈迦堂遺跡
(笛吹市・甲州市)



前期の土器 天神堂遺跡(北杜市)



中期の土器 平林遺跡(北杜市)



中期の土器 釈迦堂遺跡
(笛吹市・甲州市)



後期の土器 中谷遺跡(都留市)



晩期の土器 石之坪遺跡(韭崎市)

* 縄文土器は何に使われていたか？ *

縄文土器を観察すると土器の底の方に黒い焦げ目こが付いていることがあります。今の鍋のように使っていたのでしょう。

料理するためだけでなく、食べ物を保存するためにも使われていました。フラスコの形をした穴から発掘された土器ちようようは貯蔵用のようです。

食べ物に関わるものだけに使われたわけではなさそうです。



復元した縄文土器で料理をしました。
美味しい縄文スープができました！